



シンポジウム(12/23)の様子

コンビナート地域における 地域と企業の協働体制を強化し、 環境学習を通じた 持続可能な地域づくりモデル事業

シンポジウムへの
市民・企業・行政関係者の参加 130人

企業と地域をつなぐイベントの開催
(環境学習ツアー、エコクルーズ、
CSR勉強会) 3回

活動の全体目標に
対する達成度 50%

課題

水島地域では、大気汚染公害の経験から、企業と地域との関わりが希薄で協働による地域づくりに至っておらず、企業と地域とが一緒に考える関係性の構築が求められていた。

活動内容

倉敷公害訴訟和解20周年を記念して、企業と地域が水島の未来についてともに考え、発信する取組みの第一歩としてのシンポジウム「世界一の環境学習のまち みずしまを目指して」を開催した。シンポジウムでは、地域住民・企業・行政関係者130名の参加があり、水島地域での学びを再確認するとともに持続可能な地域づくりに向けてともに考えるきっかけとすることができた。



エコクルーズ(3/12)の様子

今後の課題

- 滞在型環境学習プログラムを確立することで、資金的な面でも、持続可能な体制づくりを目指す。
- 人材バンクの登録者を増やし、活躍のできる仕組みづくりを進め、学びのできる地域としての体制を確立する。

成果と工夫した ポイント



成果

企業と地域をつなぐ環境学習ツアー(8/23)は38名、エコクルーズ(3/12)は44名の親子の参加があった。企業のCSRアンケートは129社に発送、44社(34%)が回答し、8社にヒアリングをした。

工夫

企業へのアプローチに際しては、協議会の多様な主体が参加している利点を活かすことができた。